最近のモルディブ情勢と日モ関係

モルディブ概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１

モルディブ政治・経済情勢　・・・・・・・・・・・・・・・・・　２

最近の日モルディブ関係　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３

2025年4月
外務省南西アジア課

モルディブ共和国

●民主主義定着途上の穏健イスラム国
…2004年以来民主化改革を促進。2023年9月に大統領選挙が行われムイズ政権が発足。

●伝統的な親日国
…長年の主要援助国（護岸壁、青年海外協力隊等）。国際場裡で日本を積極的に支持。

●地政学的な重要性
…シーレーン上の戦略的要衝。「自由で開かれたインド太平洋」の観点からも重要。

●気候変動・自然災害に対する脆弱性
…環礁国で、気候変動や津波等の自然災害に脆弱。

＊人口： 51.5万人（2022年：モルディブ統計局）

＊面積： 298 ㎢（全島総計。東京23区の約半分。）
・約1200の島から成り、その内約200が有人島。
・首都のマレ島の面積は1.956㎢

＊穏健イスラム教国： イスラム教が国教（スンニ派）

＊GDP成長率：4.7%（2023年：世銀資料）

＊一人当たりのGDP：12,530ドル（ 2023年：世銀資料）

＊政治体制・・・共和制
・元首：モハメド・ムイズ大統領
・国会：一院制（93議席）

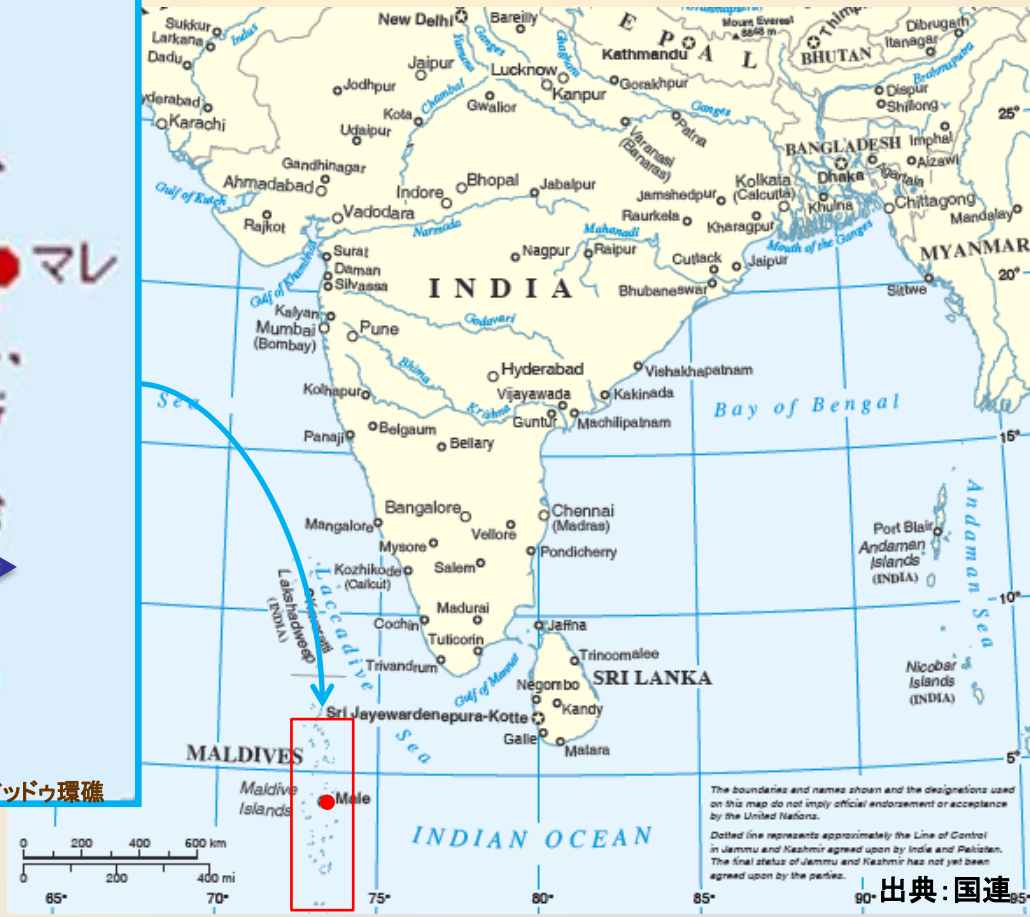
＊産業・・・観光、水産業
・日本人観光客は年間約31,000人

＊外交・・・非同盟中立、
小島嶼国連合（AOSIS）議長国（2015～2018）

＊在留邦人・・・93名（2024年：外務省海外在留邦人調査統計）

＊日系企業総数（拠点数）・・・14（2024年：外務省海外在留邦人調査統計）

＊気候変動・・・平均海抜1.5m



モルディブ政治・経済情勢

モルディブ内政

ガユーム元大統領
1978年～2008年
モルディブ進歩党（PPM）

ナシード元大統領
2008年～2012年
モルディブ民主党（MDP）

ワヒード元大統領
2012年～2013年11月
国民連合（NA）

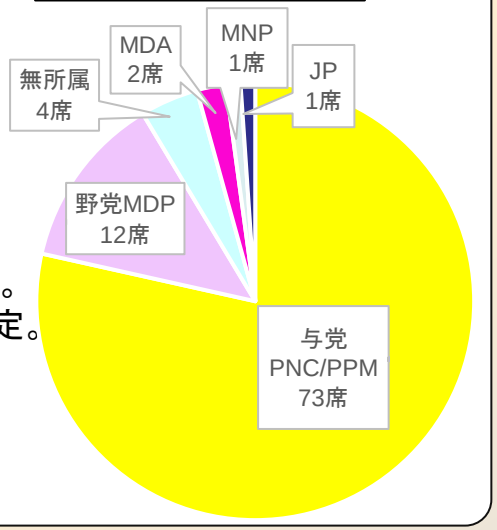
ヤーミン元大統領
2013年～2018年
モルディブ進歩党（PPM）

ソーリフ前大統領
2018年～2023年
モルディブ民主党（MDP）

ムイズ大統領
2023年11月18日就任
人民国民連合（PNC）

●ガユーム大統領が1978年から2008年までの6期30年間、独裁的政治体制を維持し、観光立国として成長。ガユーム体制への批判の高まりを受け、2004年以降民主化改革が行われ、2008年に民主的な憲法を制定。
●2013年11月、ヤーミン大統領（PPM）が就任。2018年11月、ソーリフ大統領（MDP）が就任。2019年4月の議会選挙でMDPが3分の2以上の議席を獲得し大勝。
●2023年11月、ヤーミン大統領下で閣僚を務めたムイズ大統領（PNC）が就任。本年4月の議会選挙で与党PNC/PPMが3分の2以上の議席を獲得し大勝。

モルディブ国会の議席配分
一院制、全93議席、任期5年、直接選挙（小選挙区制）



最近のモルディブ外交

●基本的に非同盟中立。全ての国との良好な関係維持に努めている。隣国インドと伝統的に緊密な関係を築く一方で、近年は中国が積極的に援助を実施。
●気候変動、環境保全、人権に注力。
●モルディブの在外公館は計18公館。大使館：16（バングラデシュ、英国、インド、マレーシア、パキスタン、シンガポール、スリランカ、中国、日本、サウジアラビア、UAE、独、タイ、米国、ベルギー、スイス）代表部：2（国連、ジュネーブ）
●モルディブに大使館を設置している国は11カ国（インド、中、バングラデシュ、スリランカ、パキスタン、サウジアラビア、日、UAE、英、米、豪）
●ムイズ政権下で国内のインド軍関係者送還の取組を開始。2024年3月、中国からの軍事支援の無償提供に関する合意書に署名。

最近のモルディブ経済

●経済の基盤は観光と水産業。GDP成長率4.7%(1)、インフレ率2.9%(2)となっている。観光はGDPの21.5%(3)を占める主な外貨獲得源。水産業はGDPの3.8%(4)であるが、輸出産品の87%を支える重要産業(5)。
●一人当たりのGDPは南アジア最大（12,530ドル）(6)。2011年に後発開発途上国（LDC）を卒業。

(1)(2)(6)2023年：世銀資料、
(3)(4)(5)2023年：「モ」統計局

最近の日モルディブ関係

日モルディブ関係の流れ

●2022年に外交関係樹立55周年を迎えた。2007年、駐日大使館開設（東アジア初。日・モ40周年）、2016年1月、在モルディブ日本国大使館開設。
●近年の主な要人往来：2013年6月新藤総務大臣訪モ、2014年4月ヤーミン大統領訪日（「モ」大統領の初の公式訪問）、
2018年1月河野外務大臣訪モ、2018年6月アーシム外相訪日、2018年11月竹下亘総理特使の訪モ（大統領就任式）、
2018年12月シャーヒド外相他2大臣訪日、2019年4月鈴木政務官訪モ（選挙監視団）、
2019年10月ソーリフ大統領、シャーヒド外相訪日（即位礼正殿の儀他）、2021年8月シャーヒド外相訪日（国連総会議長としての訪日）、
2022年9月シャーヒド外相訪日（安倍元総理国葬儀参列のため大統領特使として訪日）、2023年5月シャーヒド外相訪日、2023年7月林大臣訪モ、
2023年9月武井副大臣訪モ（選挙監視団）、2023年11月高村政務官（総理特使）訪モ（大統領就任式）。

経済・経済協力

●1985年以来モルディブにとって最大の二国間援助供与国の1つ。
➢小学校改築支援、マレ島護岸工事、青年海外協力隊員の活動は特に高い評価。
➢2004年の津波復興のため2006年に初の円借款を供与。
➢2016年10月、日本方式地上デジタルテレビに関する無償資金協力のE/N署名。
●多くの日本人観光客がモルディブ訪問（2024年：31,074人、2019年：44,251人）
➢日本・モルディブ間の貿易額は約48.3億円（2022年財務省）。

年度	円借款	無償資金協力	技術協力
2016年		36.42	2.67
2017年		-	1.94
2018年		6.19	0.81
2019年		10.62	2.78
2020年	46.27	12.78	1.48
2021年		25.1	1.13

（（交換公文ベース、JICA経費実績ベース）（単位：億円））

	主な相手国	日本の「モ」輸出入額・主な取引品目
輸出	タイ、独、英、印、仏	45.0億円　機械類及び輸送用機器
輸入	オマーン、印、UAE、中、シンガポール	4.3億円　魚介類（カツオ、マグロ等）

（2022年：世銀資料）　（2021年：財務省）

津波被害支援

●2004年のインド洋大津波に際し日本が無償資金協力で建設した防波堤がマレ島を深刻な被害から守ったとして2006年にモルディブ政府より日本国民に対し「グリーン・リーフ賞（環境賞）」が授与された。
●東日本大震災に際し、国営テレビにて寄付を募る24時間テレビが放送され、集まった義援金を元にして、約70万個のツナ缶を支援物資として提供。

（1987～2002年の15年間をかけ、首都マレ島の高潮対策事業を実施。マレ島全周6kmにわたり護岸を建設。）

国際場裡

●多くの国際機関選挙・決議等で我が国を支持（我が国の安保理常任理事国入りも支持）。

防衛協力

●過去20年以上に亘りPKO関連活動や海賊対処派遣部隊への物資輸送のため、自衛隊機がマレ空港を利用。
2023年3月に掃海母艦「うらが」及び掃海艦「あわじ」、7月に護衛艦「さみだれ」、2024年3月に護衛艦「あけぼの」がマレに寄港。